

第1章 共同研究活動の経過と遺跡の歴史的経緯

第1節 活動の経過と概要

1. 活動の目的

本研究は平成21～22年度に実施した「高島多米治と下郷コレクション—福田貝塚・椎塚貝塚—」の継続課題として、平成23年度～平成25年度にかけて実施した。

前研究課題の成果としては、対象となった遺跡自体が現在もなお正確に把握されていないため、採集資料とはいえ検討する価値を今日的に有していることが確認され、今後もコレクション全体の理解を深めるためにも高島多米治という人物の蒐集品調査や活動の復原がきわめて重要であるとの見解をえた。

これをうけ、本研究では引き続き高島採集資料の中核をなす遺跡資料を対象とした作業を実施することとし、千葉県銚子市余山貝塚が選定された。余山貝塚は福田貝塚・椎塚と同様に高島多米治本人が直接現地へ赴いて直接資料採集を行ったことがわかっている遺跡で、古くから多量の貝輪や骨角器が見つかり、人骨なども発見されている考古学史上著名な遺跡のひとつである。

具体的な作業目標は、①土器・土製品などで同遺跡の墨書注記をもつものの抽出とリスト化、②大量に含まれる骨角器類・貝輪などのリスト化と可能な範囲で資料化を行うことである。また、石器についてもその状況を確認し、リスト化を目指した。

2. 共同研究者一覧（肩書きはすべて当時）

活動期間である平成23年4月～平成26年3月まで下記の共同研究者の参画を得た。

阿部芳郎氏 明治大学文学部教授
 栗島義明氏 埼玉県立さきたま史跡の博物館
 樋泉岳二氏 早稲田大学教育学部非常勤講師

*計画の実施にあたっては、下記の方々の参加協力を得た。

須賀博子氏（松戸市教育委員会嘱託・明治大学日本先史文化研究所）・吉岡卓真氏（明治大学日本先史文化研究所）・別所鮎実（明治大学大学院）

3. 活動の経過と概要

【平成23年度】

平成23年度は完形土器資料および土器破片一括資料に含まれる注記資料の選別と記録化を実施した（調査期間：平成23年8月、調査場所：大阪歴史博物館）。

【平成24年度】

平成24年度は、骨角器および土器の資料化に主眼を置いて作業をすすめた。その際、対象資料を明治大学へ搬送し、作図・計測・同定を行った（調査期間：平成24年11月～平成25年2月、調査場所：明治大学）。

また当年度には、阿部芳郎氏が代表をつとめる明治大学日本先史文化研究所によって、企画展「下郷コレクションと霞ヶ浦の貝塚」が開催されることとなり、平成21年度～22年度にかけて実施した共同研究成果を公開することを目的としてこれを共催した。さらに上記企画展に関連させたシン

ポジウムも行われ、共同研究者がそれぞれ登壇した。

■企画展「下郷コレクションと霞ヶ浦の貝塚」

企画展開催期間：平成25年2月16日（土）～3月17日（日）

開催場所：明治大学博物館

入場者数：

■関連シンポジウム（平成25年2月16・17日 於：明治大学アカデミーコモン9階）

2/16「下郷コレクションの由来と霞ヶ浦の貝塚」

2/17「陸平と上高津～縄文の資源利用と社会～」

【平成25年度】

最終年度として、成果報告書の構成について検討した。さらに、石器資料をリスト化する必要性が指摘されていたため、当年度において石器の器種確認と石材判定などを実施した調査期間：平成25年8月、調査場所：大阪歴史博物館）。

（加藤俊吾）